

ロシアにおける反対派（一九九二―一九九三年）

下里 俊行

本論は、ソ連邦解体以降のロシア思想の変容を説明するための前提として、一九九二―九三年におけるロシア連邦の大統領・政府に対する「反対派の実態を彼らが発行した新聞・雑誌にもとづいて概観するものである」⁽¹⁾。反対派の思想は、さしあたり民族・愛国主義、共産主義、社会主義、アナキズムなどに分類できるが、その内部にも著しい差異があり、従来マスコミなどで「保守派」として一括されてきた反対派の思想的多様性を明らかにすることを主眼におく。資料は末尾にまとめ、本文中では該当番号で表示する。

一 民族主義・愛国主義⁽²⁾

〈ロシア民族ソボル〉は、ロシア愛国勢力の連合組織として九二年六月に結成され、共同議長に、KGB退役将軍ステルリゴフと農村作家ラスプーチンを選出した。設立大会では、正面にミリーニンとボジャールスキイの像、脇に黒黄白の三色旗を掲げ、演壇は聖ゲオルギイ旗で飾られた。

いずれも西欧に対するロシアの民族性を表現する象徴である。とくに黒黄白旗は、一八五八年にアレクサンドル二世が導入したもので、エリツィン派が八月事件の時に掲げた白青赤旗（ビョートル大帝が採用）に対抗する意味を持っている⁽³⁾。大会には、ロシア人だけでなくロシア史と結びついた諸民族の未来を憂うとして旧共産党幹部とソビエト時代の反体制派が肩を並べた。綱領では、今日再びロシアが外国からの襲来にさらされており、動乱時代や第二次大戦の時のようにロシアの一致団結が必要だと呼びかけている。具体的には、無償教育、無償医療、無料住宅、社会弱者の生活保護、児童・老人への社会福祉、有給休暇などを要求し、新体制のもとでの福祉切捨て政策への抗議の声を集めている。こうした社会政策の要求が愛国主義のイデオロギイによって統合されている点が興味深い [60, 137]。

〈ロシア全人民同盟〉は、人民代議員会派「ロシア」を率いるパブリリンが議長をつとめている団体で、週間紙『時代』[6]を発行している。会派「ロシア」は、会派「ロシア共産主義者」と並んで大統領の急先鋒に位置している。紙名『時代』は、一八六〇年代初頭に民族意識の覚醒を呼びかけたドストエフスキイ兄弟の雑誌名を意識しており、愛国主義をコスモポリタニズムのなエゴイズムに對置したストラーホフの文章を載せている。

〈国民救済戦線〉(ФНС)は、愛国派と一部の共産主義

者を含む超党派の反対派組織として九二年十月に結成された。参加者の思想傾向の多様さは、同戦線政治評議会の構成員からも確認することができる。⁽⁴⁾『国民救済戦線通報』[5]に掲載された「宣言」は、国の崩壊、同胞同士の殺し合い、米国への軍事的譲歩、国内産業の荒廃、犯罪激増を指摘し、現在を内戦前夜と特徴づけ、エリツインの政策を国民的裏切りと批判し、ロシアを破滅から救済するために、イデオロギー論争の停止、愛国勢力と勤労人民の団結と予想される体制側の反憲法的行為を阻止することを呼びかけた。また、大統領の罷免と不法に解体されたソ連を諸共和国同権の自発的連合として再建することの是非を問う国民投票を要求する署名運動が提起された。同戦線は、結成直後に大統領令によって活動禁止を宣告されたが、いったん撤回され九三年一〇月の大統領クーデターの際に再び合法組織と宣告された。あくまで合法的活動に限定した同戦線が、権力側の「超法規的措置」によって禁止されたのである。

これら反対派の活動を精神的に支援したのは、プロハノフが編集する十五万部の週間新聞『日』[13]である。プロハノフは、ニカラグアやアフガニスタン、チェルノブイリで活躍したジャーナリストで、八月事件後、分散した愛国団体をまとめあげ、国民救済戦線へと結実させた。彼自身は、アジアとヨーロッパの統一をめざすユーラシア理念の

信奉者で、若手ユーラシア主義者ドゥギンの論文をさかんに自分の新聞に発表させている。

A・ドゥギンは、資本主義と共産主義に代わる第三の道としての「保守革命」の理念を提唱し、ファシズム理論、ロシア・ユーラシア主義、ドイツ保守革命の理論の再検討の志向している。彼が編集長をしている雑誌『エレメントイ』[59]は、ユーラシア評論誌として九二年七月に創刊された。編集委員には、プロハノフのほかアルクスニスやセルビア、イタリヤ、ベルギーの新右翼理論家に参加している。V・アルクスニス大佐は、一九五〇年生まれのラトビア人で、赤軍コミッサールでありながら粛清された祖父をもち、連邦維持を訴えたソ連人民代議員会派「ソユーズ」のリーダーである。ソ連解体後は軍から解雇され、妻子がラトビア語を話せないため民族優遇政策をとる故郷にも帰らず、モスクワ郊外に暮らしている。彼は国民救済戦線の結成時にインタビュに答え、もし大統領直接統治という名の独裁が導入されるならば、一九三七年(スターリンのテロルが開始された年)の繰り返しは避けられないと指摘した。

新聞『我がロシア』[27]は、人民代議員会派ブロック「ロシアの統一」の機関紙的性格をもち、同会派の声明やソ連邦の国際的地位確認を求めた国連事務総長あてのソ連人民代議員大会常任幹部会の声明や、モルドヴァからの独立

をめざすロシア人を支援する「ブリドネストルのためのロシア」全国委員会の声明を掲載したり、経済復興のために軍産複合体の温存と世界武器市場への積極的参入を主張している。

『ロシアの大義』[43]は、九二年から国民民主党の新聞として発行されたが、九三年から同編集部は党から独立した。ロシア人民を「占領体制」から解放するためには、学校、教会、知識人をあてにすることはできず、愛国派出版物による宣伝を通じて労働者、退役軍人、学生に働きかけることが重要だと主張している。同紙が挙げる民族・愛国派の出版物は、『トゥシンの脈動』[32]、『ロシアの意志』、『ロシアの新聞』、『ルーシのために』[18]、『祖国』[31]、『ロシアの秩序』[42]、『ロシア通報』[41]、『祖国の自由』、『起源』、『人民の大義』、『ロシアの東方』である。

民族派の中には露骨な反ユダヤ主義や武装路線をとるグループも存在している。『ロシアの秩序』[42]は、後述する〈ヘバーミヤチ〉から分裂して、九〇年にA・バルカシヨフが創設した準軍事組織〈ロシア民族統一団〉の機関紙である。鍵十字と斜十字を組み合わせた独特のシンボルを持ち、ロシア選民思想に基づき個人に対する民族利害の優先を唱え、共産主義および「多元主義―コスモポリタンの民主主義」と戦うことを宣言している。同組織に対して新聞『日』は、「ロシア・ファシズム」であると批判している。

またこの組織は、九三年一〇月のモスクワ騒乱の際にテレビ局に突入した主要部隊であった。

バルカシヨフが人種主義に基づく「ナーツィヤ」を強調するのに対して、八九年八月にD・ヴァシーリエフがモスクワで結成した民族愛国戦線〈ヘバーミヤチ〉は、ロシアの伝統的な民衆を指す「ナロード」を強調している。旧正字法で印刷された機関紙『パーミヤチ』[32]は、十九世紀の官製民族理論に擬して「信仰・ツァーリ・祖国のために」というスローガンを掲げている。この団体は、イコンを掲げ黒い制服でデモ行進をしたり、敵対する新聞編集部への襲撃を行っている。

このほかにヘロシア民族共和党(HPP)は新聞『我が時代』[28]を発行し、「単一の強力なロシア国家の復活」をめざし、民族分離主義に反対している。またロシア人からなる戦闘組織〈ロシア民族レギオン〉を組織し、旧連邦から離脱した諸共和国でのロシア人の利益の擁護をめざしている。ヘロシア党(P)は、ロシア民族の国家としてのロシアの再建をめざし、反ユダヤ主義の志向が強く、機関紙『ロシア報知』[41]では、「ロシアのテレビをロシア人に」をスローガンにオスタンキノ・テレビでの座り込みなど実力行使を呼びかけてきた。

王政復古を唱えるグループには、ベテルブルグの新聞『君主主義者』[23]がある。キリスト教君主主義者同盟の

集会案内や全ロシア君主主義者大会のようも掲載している。九二年八月にタガンロクで開かれた同大会には、ペテルブルグのキリスト教君主主義者同盟、モスクワ君主主義者センター、タガンロク君主主義者同盟、新聞『玉座』『君主主義者』『帝国民』[11]などが参加し、王政復古とロマノフ朝の再興をめざすへ全ロシア君主主義者センターを設立した。

二〇世紀初頭の愛国運動の継承を唱えているのは、『黒百人組』[57]をモスクワで発行しているグループである。ルーンを現在の動乱から救うために愛国勢力の結集を呼びかけている。また現在の「民主派」のリーダーたちの共産党時代の過去を暴露し、反ユダヤ主義の色彩が強い。黒百人組とは、今世紀初頭の極右団体の通称である。やはりまた今世紀の初頭のロシア国民同盟の新聞を再建したと主張する『ロシアの旗』[44]は、ロシア正教・専制ツァーリ・ロシア民族という官製民族主義のスローガンを掲げ、かつての秘密軍事都市アルザマス16で発行されている。

〈自由民主党〉(ЛДП)は、リベラリズムを名乗っているものの民族主義・国家主義の色彩が強く、大統領選挙に出馬し抜群の知名度を持つジリノフスキイが指導している政党である。黒黄白旗を掲げ、〈労働ロシア〉の集会にも参加している。新聞『リベラル』や理論誌『ジリノフスキイの鷹』[51]を発行し、独自の国家社会主義や「理性的エゴ

イズム」と称する独特の外交政策を唱えている。

二 共産主義派

共産主義者のグループは、ほとんどがソ連共産党末期の分派から派生している。九三年に共産党の活動の禁止措置が緩和されると共産党の遺産を継承すると自称するロシア共産党やソ連共産党が「再建」されたが、いずれも広範な共産主義者を結集していない。

〈ロシア共産主義労働者党〉(PKPP)は、共産主義政党の中で最大の勢力をもち、指導者はV・アンピロフ(モスクワ市議)、V・チュリキンらである。勤労者統一戦線のコソラポフ(モスクワ大教授)とマルクス主義綱領派のチュリキンが合流して形成された共産主義イニシアティブを母体にして、九一年十二月に結成された。機関紙は、アンピロフがモスクワで創刊した『稲妻』[22]。アンピロフは、集会での激的な演説で体制側の憎悪的になり九三年のメーデーの直前に拉致され負傷するなど数々の弾圧を受けている。一方コソラポフは独自に「意志」[7]を編集し九二年秋に民族派との提携を志向し国民救済戦線に参加したが、その後リャザンの組織とともに九三年一月にロシア共産主義労働者党・レーニン綱領派(「意志」イスクラ)[8]として九三年に「再建」されたロシア連邦共産党に合流した。その他に『我が選択』[26]がニジニイ・

ノヴゴロド市で発行されている。また一般紙としてペテルブルグで発行されている『人民の真実』〔25〕とも協力関係にある。また同党の系列のヘロシア青年共産主義者同盟は九三年一月にペテルブルグで結成され新聞『ムムバラシ—二〇一七』〔3〕を発行している。同党が中核を担っている運動〈労働ロシア〉は数々のデモ・集会や労働者・農民・労働知識人ソビエト大会を企画し、九二年十一月の革命記念日のデモ・集会には約五万人が結集するなど、下からの大衆運動を基調としている。同運動は、共闘組織として出発し正式の設立大会は九二年の一〇月でリーダーにはアンピエロフが選ばれた。主な構成団体は、労働者統一戦線、「レーニンと祖国」協会、「レーニン主義と共産主義理想のための統一」などで共産主義者以外の反対派も糾合している。宣伝紙としてロシア勤労者統一戦線が発行している『何をなすべきか』〔58〕が用いられている。

〈全連邦共産党ボリシエヴィキ派〉(B K P B)は、八八年にゴルバチョフを批判したニーナ・アンドレエヴァを指導者とするグループで、九〇年頃から運動〈統一〉を形成していたが、九一年七月にボリシエヴィキ綱領派を結成し、その後同年十一月にペテルブルグで同党の創立大会を開いた。系列紙としてムルマンスクの『アンドロポフスカヤ・ブラヴダ』〔1〕、オリエールの『統一』〔15〕、モスクワの『棍棒』〔14〕を発行しており地方に根強い支持者をもって

いる。系列団体に全連邦協会「レーニン主義と共産主義理想のための団結」や全連邦ボリシエヴィキ青年親衛隊があるが実態は不明である。このグループはスターリンを肯定的に評価している。

同じくスターリン崇拜の傾向をもつ『闘争』〔2〕は、「社会主義の祖国が危ない」というスローガンのもとで愛国・共産主義運動の形成を提唱し、ボリシエヴィキ綱領派のハバロヴァや〈労働者愛国者リスターリン派の統一〉協会、〈愛国ロシア〉運動、ソ連プロレタリア共産党といったグループや退役軍人たちの論文を掲載している。

〈ロシア共産主義者党〉(P P K)は、クリュチコフが指導するグループで、マルクス主義綱領派を母胎としている。機関紙は『ロシアの真実』〔39〕、理論誌『思想』〔24〕をもっている。レニングラード組織が『レニングラードの共産主義者』〔20〕を発行している。友好団体にはペテルブルグの月刊誌『良心』〔49〕、「市民権利のための共産主義者」連合がある。同党は、共産主義者の単一党の再建というよりも既成諸党の連携強化を志向し、共産諸党の行動調整機関〈ロシア共産主義者評議会〉の結成のイニシアティブをとった。また国際的提携も幅広く、フランス、トルコ、ポルトガル、日本、イタリア、ガロンヌ地方、朝鮮の共産主義者と提携している。理論的には、資本主義の原理的批判と自由なアソシエーションとしての共産主義の理想に立脚

し、マルクス原理主義というべき性格をもっている。

〈共産主義者同盟〉(C K)は、中央委員A・ブルガリーンらに指導されている。マルクス主義綱領派だったブルガリーンは、いったん共産主義イニシアティブ系のコソラポフとともに九一年一〇月に〈共産主義運動連盟〉を名乗ったが、そこでの分派形成に失敗し同年十一月に共産主義同盟組織委員会を公然化させ、九二年に政党登録に成功した。各共和国に系列組織をもち比較的広範囲に組織されている。一九八七年以降、ベレストロイカ路線が変質したと見え、あくまで社会主義の改良をめざしている。単一共産党の再建を志向し、他の共産主義党派と対立している。同党に対して友好的な一般紙『グラスノスチ』〔9〕はタブロイド版八面・十五万部という強力な宣伝力をもっている。九三年にソ連共産党「第二九回大会」を強行し、単一党再建をはかったが、他党派から批判を浴び、諸党連合体として〈諸共産党同盟―ソ連共産党〉を結成するにとどまった。このグループは、共産主義者と民族派との連携や国民救済戦線に批判的な態度をとっている。

〈社会主義勤労者党〉(C P T)は、旧ロシア共産党中央委員や民主綱領派からなり、ロイ・メドヴェージェフやA・デニソフらが中心になって九一年一〇月にモスクワで創立された。西欧的な社会民主主義を掲げている。「第二〇回全協」やロシア共産主義者評議会などに参加していた

が、クブツォフ、ジュガノフの主導のもとでのロシア連邦共産党の再建に参加した。

九三年になってソビエト時代の共産党を再建する動きが活発化した。背景には、政府の私有化政策を前提にして旧共産党の財産継承権を主張する組織づくりという側面があることは否定できない。その幹部にはクーデタ以降、民族派を名乗っていた旧共産党最高指導部の多くが名を連ねている。〈ロシア連邦共産党〉(K P P Φ)は、かつての非常事態国家委員会のメンバーも参加して九三年二月にロシア共和国共産党「第二回臨時大会」で結成された。ロシア連邦内のソ連共産党の財産継承権を主張し、指導部には、ジュガノフやマカシヨフら国民救済戦線の幹部が選出された。また〈諸共産党同盟―ソ連共産党〉(C K P I K P C)は、共産主義者同盟の主導で九三年三月に旧ソ連領の各国から四一六名の代議員を集め結成された。議長は、シェーニンで、ロシア連邦共産党に対抗してソ連共産党の継承者を自称している。

三 トロツキスト系

今日、非共産党員でかつロシアの資本主義化に批判的な若者の一部は、ベレストロイカ期に復権されたトロツキイの思想に魅力を感じている。〈労働者民主主義と国際社会主義のための委員会〉を名乗るグループは、国際社会主

義・トロツキズムを掲げ、機関紙『労働者民主主義』〔35〕を宣伝している。国際的にはイギリスの「ミリタント」などと連帯している。青年・学生層を重視し、工場ストライキの支援や労働者組織との協力を目指している。旧共産党系の諸党派に対して批判的であり、とくに国際主義の立場から共産主義者が民族派と共闘していることを厳しく批判している。また〈国際共産主義連盟(第四インター)〉は、ロシア語版の機関誌『スバルタシスト』〔54〕を発行し、米国の組織の支援のもとで同盟盟の「ソビエト支部」が形成途上にあることがうかがえる。

四 社会主義系

非マルクス主義であり、かつ社会主義を掲げるグループには、〈社会進歩党〉(P.C.P.)がある。九二年六月にレニングラード、ノヴゴロド、リャザン、ラトビアのリガの労働者グループによって結成された。ノヴゴロドで発行している党組織委員会機関誌『反論と事実』〔21〕は、親エリツイン系の週間紙『論拠と事実』をもじったものである。生産手段の全人民的所有と民主主義の結合を理念として、私有化政策に反対するとともに、共産主義者と民族派との共闘に対して民主主義的自由の抑圧を復活させるものとして批判的である。そして既成政党の指導者―大衆の図式にもとづく政治スタイルとは一線を画そうとしている。

〈労働者党〉(P.P.)は、労組連合「擁護」と緊密な関係をもち、九二年二月にモスクワで設立された。機関紙『労働者』〔36〕は、九一年十二月に労働者党の前身であるマルクス主義労働者党と独立労組「擁護」によって創刊された。企業の職場集団所有への無償移管、統治機構の労働者自治機関による雇用、流通に対する労働者統制などを主張している。私有化政策に対して各企業での労働集団評議会やストライキ委員会の結成をよびかけ、社会全体に対する労働者統制の理念を打ち出した。同紙は第五号から労組連合「擁護」だけの発行になり、労働組合主義への移行が推測される。『労働者行動』〔37〕は労働者連合「擁護」と後述のアナルコーサンジカリスト連盟・情報センターとの共同で発行されている。

十九世紀のナロードニキ社会主義の伝統を継承するのは、九二年に創刊され、二〇世紀初頭のエスエルの機関紙名を採用した『革命ロシア』〔38〕を発行しているグループである。彼らは、共産主義的ユートピアではなく現実的な展望としての社会主義を主張し、党派別の選挙による憲法制定会議の召集を呼びかけている。九一年一〇月にはモスクワの〈社会主義者―ナロードニキ協会〉の発意により自治主義者会議が開かれ『革命ロシア』紙グループのほか、モスクワの〈革命的アナキスト・イニシアティブ〉、ペテルブルグの〈急進同盟〉、ケニヒスベルグの〈連帯〉協会、ヘアナ

キスト・ウファ戦線」などが参加し組織統一について議論した。さらにこれらのナロードニキ・サンジカリストたちは、カガルリツキイの「社会党」およびマルクス主義綱領派のプズガリンとともに、九二年一〇月に「労働党」(PT)を創設するにいたった。同党は、雇用労働の利益を擁護し、経済民主主義と国際主義を基調としている。しかしその後の分派闘争の激化が指摘されている。友好団体には「連帯」[52]を発行しているモスクワ労働組合連盟がある。

五 アナーキスト系

共産主義や社会主義の方向を否定しつつも、なお現体制の権威主義的な体質に批判的な若者は、アナキズムの理念に目を向けている。彼らは、資本主義を肯定する立場、サンジカリズム、徹底した個人主義的アナキズムに分類することができる。例えば、中小企業組合モスクワ市委員会の宣伝紙の性格をもつ無料広告紙『自由世界』[46]は、ほとんどの紙面が企業広告で占められているが、討論の頁を設けて様々な意見を掲載している。その中の一つ「モスクワ・アナーキストグループ連盟」は、経済的自由と社会保障、政治的自由の要求と並んで、武器所持の自由化、軍と警察の廃止と人民武装組織およびハイテク精鋭職業軍隊への置き換え、全役職の人民選挙と適時の再選挙、官僚権力に代わる人民自治を掲げている。とくに政府の独占企業優

遇の私有化政策、課税政策を批判し、独自の個人加盟の社会保険・年金制度の設立を志向し実践している。また政府の共産主義者への政治弾圧を「権威的・ファシスト的形態」だと批判している。

「アナルコーサンジカリスト協議会」(KAC)は、大会を唯一の最高機関とする地方のアナルコーサンジカリスト組織の連合体である。国際労働者協会(反権威インター)やスウェーデンのSAC、スペインのCNTと友好関係を持ち、当面の課題として政治の徹底した非政党化を主張し、将来的には勤労者の労働生産物に対する完全所有、自治、軍縮、非党派性の原則に基づく「非国家的社会主義社会」をめざしている。活動方法は、平和的宣伝と労働組合闘争に限定している。同協議会のモスクワ組織は八七年に結成された学生グループ「共同体」を母胎として雑誌『共同体』[30]、新聞『常識』を発行している。ペテルブルグの組織は、P・ゲスキンの「アナルコ民主同盟」が九〇年に協議会に参加することで衣替えたもので雑誌『自由契約』[45]を発行している。「資本主義の未来はアナキズムである」という観点から自治の発展をめざす独自の「アナルコ民主主義」を掲げている。その他にハリコフ組織が新聞『警鐘』を発行している。また九二年秋に政府が企業私有化政策を打ち出した時、アナルコーサンジカリスト連盟・情報センターは、労組連合「擁護」とともに『労働者行動』

において、反私有化ストライキや私有化統制委員会を結成し私有化に抵抗することを呼びかけた。

個人主義的アナキズムの代表は、革命的アナーキスト連盟(ΦΡΑΗ)である。九二年一月にドニエプロペトロフスクで各地のアナーキストの小グループが集まって結成した。連盟の連絡先は、モスクワの「革命的アナーキスト・イニシアティブ」とその機関誌『黒い星』〔56〕に置かれている。アナキズムを「支配なき秩序」と定義し、アナキズムと資本主義は原理的に相容れないという見地から政府の私有化政策や市場原理を容認するアナルコー資本主義者、アナルコー民主主義者、アナルコーサンジカリストを批判している。友好団体としてヘアナキズム革命的前衛連盟やヘマージナル・アナキズム(反イニシアティブ)と名乗るグループがある。後者は、ペテルブルグで新聞『新しい光』〔29〕を発行し、文化運動の色彩が強い。

六 エコロジスト系

ソ連の環境保護運動は、八〇年代初頭の学生青年を中心とする高まりを経て、ペレストロイカ期に本格化するが、その後、「民主派」と「エコロジスト」に分岐し、八八年に学生を中心とした「社会エコロジスト同盟」が結成され、これに対抗する形でコムソモールが主導の全連邦社会組織「緑の運動」も結成された。また「緑の党」は、現在の政権

が木材輸出のために森林を破壊したり外国の放射性廃棄物を引き受ける貯蔵施設を計画していること指摘し、環境破壊分子の権力とみなしている〔25〕。また「グリーン・ピース」もモスクワで活動をしている。環境保護新聞としては『救済』〔53〕が発行されている。

* * *

「反対派のいくつかの新聞・雑誌は、一七年革命以前に発行されていた新聞・雑誌の名称を採用しており、反対派のアイデンティティがそれぞれ独自の歴史意識に支えられていることを物語っている。公式のイデオロギーが解体した時に、反対派の人々の精神的空白を埋めたのは、すでに歴史と化していたはずの十九世紀と二〇世紀初頭の様々なイデオロギーであった。興味深い点は、ロシア正教が現体制を支持しているために、君主主義者の中にも教会に対する不信任を抱いている人々がいることである。

全般的に見て、現体制に不満をもつ人々、権力をもたない人々(権力から追放された人々)が、驚くほど多様な思想を抛り所にして自己表現をしている。このような思想の多様性こそ、共産党政権崩壊の肯定的産物であった。しかし、ほとんどのマスコミが大統領支持者によって掌握されていること、月に二〇%以上のハイパー・インフレがもたらした紙の高騰が反対派の出版活動全体に抑圧的に作用していること、また大統領クレーダによって反対派のほとんど

どが活動を規制された点も指摘しないわけにはいかない。
「反対派の思想の立ち入った個別の検討は、別稿を要するものであり、さしあたり現在のロシアの反対派の思想的多様性は市民の思考の自立性を反映するものであることを指摘してむすびとしたい。

(1) 本稿が用いた出版物は、筆者が一九九二年七月から九三年七月までにモスクワおよびペテルブルグで収集したものである。

(2) 最近のロシア・ナシヨナリズムについては、長縄光男「アレクサンドル・ヤーノフの『ロシア的理想』論」(『ロシア史研究』第五二号、一九九二年)を参照。

(3) 黒黄白旗は、アレクサンドル三世によって八三年に廃止された。この他に愛国派が用いる旗は、ピョートル大帝時代から海軍旗として用いられ、使徒アンドレイの伝説と結びついている白地に青の斜十字のアンドレエフスキイ旗である。

(4) 国民救済戦線の役職者は次の通り。執行委員長にはコンスタンチノフ(ロシア人民集会)、共同議長はアスタフイエフ(ロシア人民集会)、バブリーリン(ロシア全人民同盟)、ジュガノフ(ロシア民族ソボル)、イヴァノフ(ロシア民族再生党)、イサコフ(統一会派・ロシアの統一)、マカシヨフ(全ロシア

民会ドゥーマ)、バヴロフ(ロシア人民集会)、サエシニコ(会派・ロシア共産主義者)、政治評議会には、人民代議員会派「産業同盟」「祖国」「市民社会」の代表、アルクスニス、「将校同盟」議長テレホフ、コソラポフ、ロシア作家同盟のペロロフ、ラスプーチン、アカデミー会員シャファレーヴィチ、テレビ・キャスターのネヴゾロフ、『日』のプロハノフや『我がロシア』『法律新聞』『ソビエト・ロシア』の編集長、労働ロシア、ロシア農業同盟、「ロシア理念」連合、ロシア民族同盟、ロシア人民愛国勢力評議会、「再生」党、ロシア民族共和党、「キリスト復活」同盟といった様々なマスコミ、政治・社会団体の代表者が選ばれた。

(5) ソ連解体直前の同党の立場は、加納格「ロシア帝政末期の自治連邦論と現在」(『一橋論叢』二月号、一九九三年)を参照。

反対派の新聞・雑誌一覧(名称、発行団体、発行場所、部数の順で表記した。*は、一〇月戒厳令で規制された刊行物である。)

1. *Андроповская правда*. Областной комитет Всесоюзного общества "Единство за Ленинизм и коммунистические идеалы", Мурманск, Тир. 4,000.
2. *Борьба*. ИНИФФЭФЭМ, М., Тир. 60,000.

3. *Вужбараш-2017*. ВЛКСМ, М., Тир. 70,000.
4. *Вести с Дона*. Аналитический информационный центр г. Ростов-на-Дону.
5. *Вестник ФНС*. Фронт Национального Спасения, М., Тир. 26,000.
6. *Время*. Российский Общенародный Союз, депутатская фракция "Россия", М., Тир. 15,000.
7. *Воля*. Московский клуб коммунистов-ленинцев, М., Тир. 15,000–20,000.
8. *Воля. Искра*. ЛП+КРПГ, Рязань, Тир. 15,000.
9. *Гласность*. М., Тир. 192,000–155,000. *
10. *Голос анархизма*. Московский союз анархистов (МСА), М., Тир. 999.
11. *Гражданни Имериш*. СПб.
12. *Дело*. М.
13. *День*. Союз писателей России, М., Тир. 150,000. *
14. *Дубинишка*. Московское общество "Единство", М.
15. *Единство*. Орел, Тир. 8,000.
16. *За рабочее дело*. Совет рабочих г. Ленинграда, СПб., Тир. 10,000
17. *За Родину. за Сталина* / Народно-демократическое движение Дагестана "Сталин", Махачкала, Тир. 15,000.
18. *За Русь* / Общество "Отечество", Новоросийск, Тир. 10,000.
19. *Звезда*. Ленинградская организация РПК, СПб.
20. *Кожушист Ленинграда*. Ленинградская организация РПК, СПб., Тир. 5,000.
21. *Коммуражменты и факты*. Партия социального прогресса, Новгород, Тир. 20,000.
22. *Молния*. ЦК РКРП, М., Тир. 60,000. *
23. *Монархист*. СПб., Тир. 950–3,000.
24. *Мысль*. РПК, М., Тир. 5,000.
25. *Народная правда*. Л.-Пб., Тир. 170,000.
26. *Наш выбор*. Нижний-Новгород, Тир. 7,000–10,000.
27. *Наша Россия*. Общественный центр "Россия", М., Тир. 26,000. *
28. *Наше время*. НРПР, Пг., Тир. 45,000.
29. *Новый свет*. "Маргинально-анархические контр-инициативы (МАКИ)", СПб.
30. *Община*. КАС, М., Тир. 30,000.
31. *Отечество*. Санкт-Петербургское русское патриотическое движение "Отечество", СПб., Тир. 25,000.
32. *Платье*. Национально-патриотический фронт "Память", М., Тир. 100,000.
33. *Тригорские новости*. Л., Тир. 50,000.
34. *Путь к свободе*. М., Тир. 2,000.

35. *Рабочая демократия*. Комитет за рабочую демократию и международный социализм. М.-Л., Тир. 5,000.
36. *Рабочий*. [Марксистская] Рабочая Партия, Независимый профсоюз рабочих "Защита", М., Тир. 100,000-50,000.
37. *Рабочее действие*. Информцентр рабочего движения КАС-КОР, Объединение рабочих профсоюзов "Защита", М., Тир. 3,000.
38. *Революционная Россия*. М., Тир. 5,000.
39. *Российская правда*. РПК, М., Тир. 10,000-4,000.
40. *Русские ведомости*. Русская партия, М.
41. *Русский вестник*. Российское общество по сотрудничеству с соответственниками за рубежом, М., Тир. 100,000. *
42. *Русский порядок*. Русское Национальное единство, М., Тир. 150,000.
43. *Русское дело*. Национально-демократическая партия, Пг., Тир. 10,000-25,000.
44. *Русское знамя*. Азямас-16.
45. *Свободный договор*. Петроградская организация КАС, Пг., Тир. 40.
46. *Свободный мир*. М., Тир. 100,000.
47. *Симоновская свобода*. Пролетарский районный Совет, М., Тир. 20,000.
48. *Ситуация*. М., Тир. 100,000.
49. *Советь*. Общественно-политическое объединение "Коммунисты за права граждан". СПб., Тир. 5,000.
50. *Социалистический выбор*. Мурманское областное движение "Социалистический выбор", Мурманск, Тир. 990.
51. *Сокол Жиринковского*. ЛДП, М., Тир. 100,000-837,500.
52. *Солидарность*. Московская Федерация профсоюзов, М., Тир. 30,000.
53. *Спасение*. М., Тир. 50,000.
54. *SPARTACIST*. Интернациональная Коммунистическая Лига, М., Тир. 50,000.
55. *Трудовой Тирасполь*. Тирасполь, Тир. 12,000.
56. *Черная звезда*. Институты революционных анархистов (ИРЕАН), 6/м [М.].
57. *Черная сомя*. Железнодорожный, Тир. 10,000.
58. *Что делать*. Движение "Трудовая Россия", ПГФТ Россия, М., Тир. 20,000.
59. *Элементы*. М., Тир. 50,000-10,000.
60. *Раdoneж-Век ХХ*. М., Тир. 10,000.